

2026年12月期 第2四半期決算説明資料

(中期経営計画2025-2029の進捗含む)

Celebrating 90 years



株式会社ツバキ・ナカシマ
(証券コード6464 東証プライム市場)

2026年8月10日

免責事項

本プレゼンテーション資料は、本プレゼンテーション資料の日付現在において有効な経済、規制、市場及びその他の条件に基づいており、当社は本プレゼンテーション資料の情報が正確又は完全であることを保証するものではありません。今後の動向が本プレゼンテーション資料に含まれる情報に影響を与える可能性があります、当社は本プレゼンテーション資料に含まれる情報を更新、改訂又は確認する義務を負いません。本プレゼンテーション資料に含まれる情報は、事前に通知することなく変更されることがあり、当該情報の変更が重大なものとなる可能性もあります。本プレゼンテーション資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、公開又は利用することはできません。

本プレゼンテーション資料には、1995年米国私的証券訴訟改革法上の将来予想に関する記述を構成する記載（推定値、予想値、目標値及び計画値を含みます）が含まれております。当該将来予想に関する記述は、将来の業績について当社の経営陣が保証していることを示すものではありません。当社は、将来予想に関する記述を特定するために、「目指す」、「予測する」、「確信する」、「継続する」、「試みる」、「見積もる」、「予期する」、「施策」、「意図する」、「可能性がある」、「計画」、「潜在的な」、「蓋然性」、「企画」、「リスク」、「追求する」、「はずである」、「努力する」、「目標とする」、「予定である」等の用語及びこれらに類似する表現を使用する場合があります。また、将来予想に関する記述は、戦略、計画又は意図に関する議論により特定可能な場合もあります。本プレゼンテーション資料に記載されている将来予想に関する記述は、当社が現在入手可能な情報を勘案した上での、当社の現時点における仮定及び判断に基づくものであり、既知及び未知のリスク、不確実性その他の要因を含んでいます。当該リスク、不確実性その他の要因により、当社の実際の業績又は財務状態が、将来予想に関する記述により表示又は示唆されている将来の業績又は財務状態から大きく乖離する可能性があります。

当社以外の会社又は当事者に関連する情報又はそれらにより作成された情報は、一般的に入手可能な情報及び本プレゼンテーション資料で引用されているその他の情報に基づいており、当社は、当該情報の正確性及び適切性を独自に検証しておらず、また、当該情報に関して何らの保証もするものではありません。

目次

1. 2026年12月期第 2 四半期の業績

2. 中期経営計画2025-2029の進捗

3. サステナビリティへの取り組み

決算と事業のポイント

総括 第1四半期に計上した**土地売却益**により、**上期の営業利益は前年同期比でプラス**。
第2四半期（3カ月）の営業利益は回復も、構造改革費用により押し下げ

1

上期営業利益は、2月に米国ジョージア州にある工場敷地内の遊休地を構造改革の一環で譲渡したことによる**売却益10億円**が下支え

2

第2四半期（3カ月）の営業利益は、構造改革費用（5月に発表した**米国アーウィン工場の閉鎖コスト**と6月に行った**組織再編**によるコスト）がなければ1桁億円後半を達成

3

欧州では、**内燃車*需要の回復遅れ・ベアリング業界の競争激化・ボール市場の競争環境の変化**により、事業環境は厳しい状況が続く。**セラミック事業は好調** *ガソリン車・ディーゼル車

4

イラン情勢に伴う影響は第2四半期に物流費等の上昇で1億円程度発現

5

FY2026の見通しは本決算公表時点から変更なし

FY2026上期 前年同期比と通期計画について 6 か月

ポイント 上期の売上収益は前年同期比6.4%減収（為替影響を除く）、営業利益は1Qに発生した土地売却益の影響で13.2億円（P8の営業利益増減要因参照）

- ー 現時点でFY26通期計画に変更はない
- ー 米国関税影響は、直接影響が約1億円、間接影響が約7億円発生

	FY2025		FY2026上期（1－6月）				通期
	（1－6月） 上期実績	通期実績	実績	為替影響	増減額 （為替影響を除く）	増減比 （為替影響を除く）	計画
（億円）							
売上収益	360.5	698.4	368.6	31.3	▲23.2	▲6.4%	700.0
営業利益	7.9	▲223.4	13.2	0.8	4.5	57.0%	25.0
対売上（%）	2.2%	▲32.0%	3.6%	—	—	—	3.6%
EBITDA	25.7	▲18.5	31.5	2.5	3.4	13.2%	—
税引前利益	▲6.9	▲239.9	3.2	0.5	9.6	黒字化	11.0
当期利益	▲9.6	▲272.1	▲1.2	0.9	7.5	—	5.0

注）本資料中FY2025の実績は、非継続事業に分類したボールねじ及びボールウェイの製造及び販売事業を除いた継続事業の数値を報告しています。但し、当期利益は非継続事業を含む。

FY2026第 2 四半期 前年同期比／前四半期比

3 か月

ポイント 第 2 四半期（3 カ月）の売上収益は前年同期比7.3%増収（為替影響を含む）。
営業利益は構造改革費用の計上により、前年同期比55.4%の減益

－ 前四半期は米国ジョージア州にある工場の遊休地売却益が計上されたため、これを除くと0.9億円

	FY2025 2Q	FY2026 1 Q	FY2026 2Q（4－6 月）		
	（4－6 月） 実績	（1－3 月） 実績	実績	前年同期比 （為替影響を含む）	前四半期比 （為替影響を含む）
（億円）					
売上収益	177.8	177.8	190.8	7.3%	7.3%
営業利益	4.3	11.3	1.9	▲55.4%	▲82.9%
対売上（%）	2.4%	6.3%	1.0%	－	－
EBITDA	13.3	20.0	11.5	▲13.8%	▲42.8%
税引前利益	▲1.4	5.3	▲2.1	－	－
当期利益	▲4.1	3.1	▲4.3	－	－

FY2026第2四半期セグメント別・地域別売上収益（前年同期比）

6か月

ポイント ▶ プレシジョン・コンポーネント全体では、前年同期比6.5%減（為替影響を除く）

ー 地域別売上収益は、日本とアジア（除中国）で前年同期比プラス。欧州は為替効果を含めても前年同期比マイナスと厳しい

(億円)	FY2025 上期	FY2026 上期（1－6月）			
	（1－6月） 実績	実績	為替影響	増減額 （為替影響を除く）	増減比 （為替影響を除く）
グループ連結	360.5	368.6	31.3	▲23.2	▲6.4%
プレシジョン・コンポーネント ¹⁾	355.3	363.6	31.3	▲23.2	▲6.5%
日本	57.5	61.6	0.0	+4.1	+7.1%
北米	72.6	73.8	3.5	▲2.3	▲3.1%
欧州	119.1	114.0	12.3	▲17.5	▲14.7%
中国	79.1	81.5	7.6	▲5.2	▲6.6%
アジア（除中国）	27.2	32.8	1.7	+3.9	+14.1%
ブロア・リアルエステイト	5.0	5.0	0.0	▲0.0	▲0.1%

1) 地域間の連結消去後

FY2026第2四半期セグメント別・地域別売上収益（前年同期比／前四半期比）

3か月

ポイント ▶ プレシジョン・コンポーネント全体では、前四半期比＋8.5％増（為替影響を含む）

- － 地域別売上収益は、欧州を除いて前四半期比、前年同期比いずれもプラス。日本とタイはセラミック事業が好調。インドは引き続き堅調

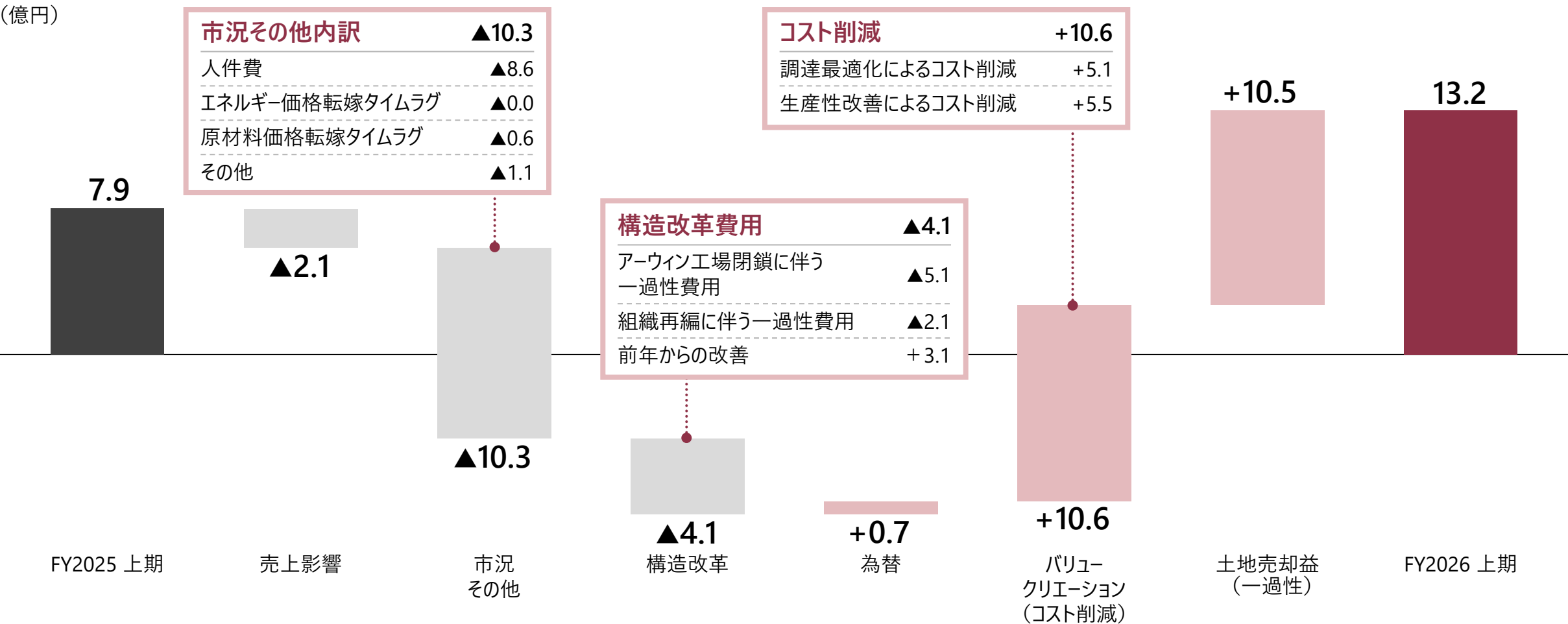
(億円)	FY2025 2 Q	FY2026 1 Q	FY2026 2 Q（4－6月）		
	（4－6月） 実績	（1－3月） 実績	実績	前四半期比 （為替影響を含む）	前年同期比 （為替影響を含む）
グループ連結	177.8	177.8	190.8	7.3%	7.3%
プレシジョン・コンポーネント ¹⁾	175.6	174.4	189.3	8.5%	7.8%
日本	28.7	28.2	33.4	18.5%	16.7%
北米	34.5	35.7	38.0	6.5%	10.2%
欧州	58.7	57.8	56.1	▲2.9%	▲4.3%
中国	40.7	37.5	44.0	17.2%	8.0%
アジア（除中国）	13.0	15.1	17.7	16.7%	35.8%
ブローア・リアルエステイト	2.3	3.5	1.5	▲55.4%	▲32.6%

1) 地域間の連結消去後

FY2026上期 営業利益増減要因（前年同期比）

6 か月

ポイント 人件費高騰をバリュークリエーションで補った格好。一過性の「土地売却益10億円」を除くと営業利益は2.8億円

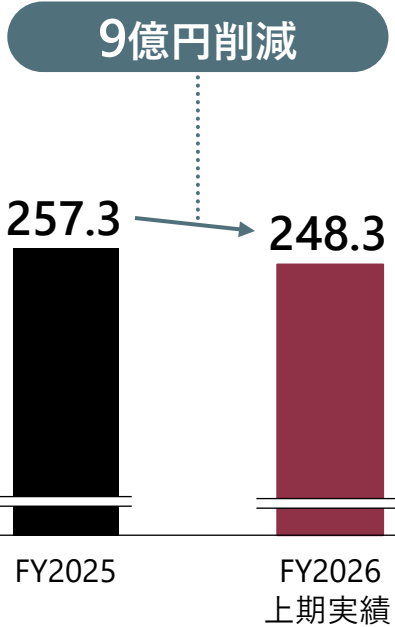


BS／CFの状況

ポイント フリー・キャッシュ・フローは前年対比で大幅縮小も、プラスを維持

棚卸資産 (億円)

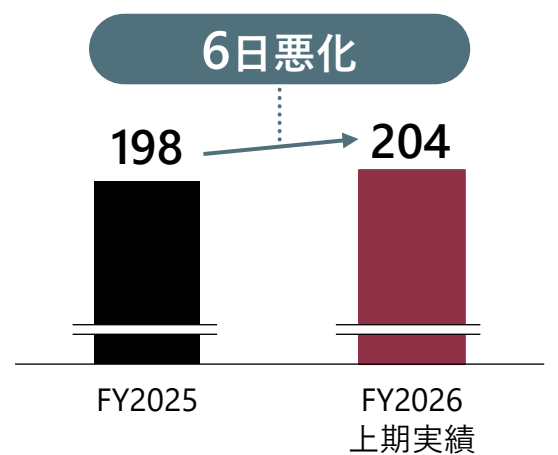
1 Qからは3億円増加も
FY2025期末との比較では
大きく削減されている



キャッシュ・コンバージョン・サイクル (日)

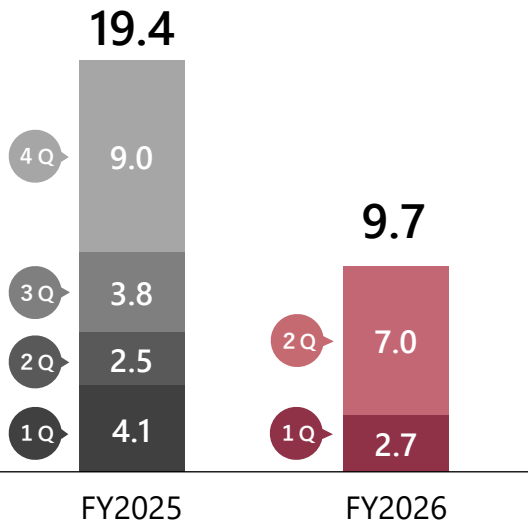
内訳	FY2025	FY2026 上期
在庫回転期間	141	136
売掛金回転期間	95	106
買掛金回転期間	38	38

在庫回転期間は5日改善を維持



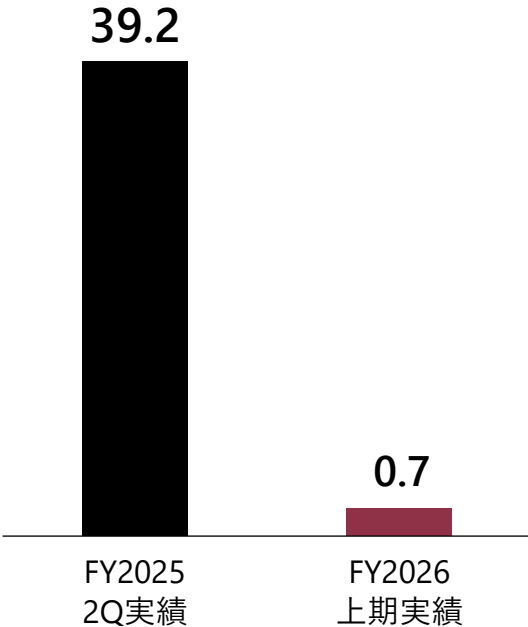
設備投資額 (億円)

下期偏重で
投資を計画しており、
通期では約45億円を想定



フリーキャッシュフロー (億円)

売上債権の増加と
棚卸資産の削減幅縮小により
前年対比では大幅縮小も、
プラスを維持



キャッシュフローと営業利益の推移

ポイント▶ 上期のフリー・キャッシュ・フローは黒字を維持

	FY2022	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026	
	通期	通期	通期	通期	1Q (3カ月)	上期 (6カ月)
(億円)						
営業CF	▲41.4	14.1	48.7	105.2	▲6.3	▲0.3
投資CF	▲35.0	▲49.0	▲38.0	11.2	7.8	1.0
財務CF	▲17.6	13.9	▲19.1	▲13.0	▲0.1	▲1.7
FCF	▲76.4	▲34.9	10.7	116.4	1.5	0.7
営業利益	▲90.7	8.5	8.1	▲222.6	11.3	13.2
当期利益	▲90.9	▲12.9	9.1	▲269.9	3.1	▲1.2

成長セグメント売上実績（FY2026上期の進捗）

ポイント セラミックとプラスチックが好調。インドは堅調。航空防衛は下期偏重

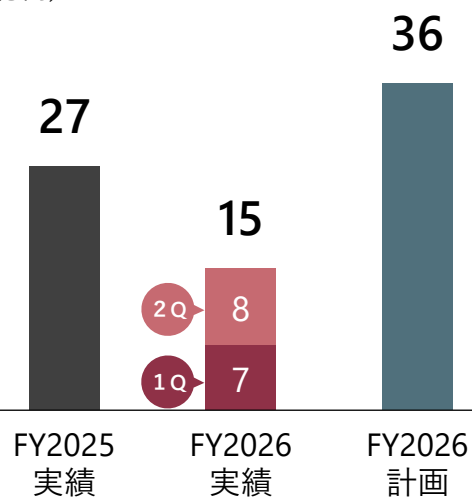
－ 中期経営計画の成長セグメントは、インド市場、航空防衛、セラミックボール、高機能プラスチック

インド市場



FY26計画比進捗 **43.5%**

(億円)

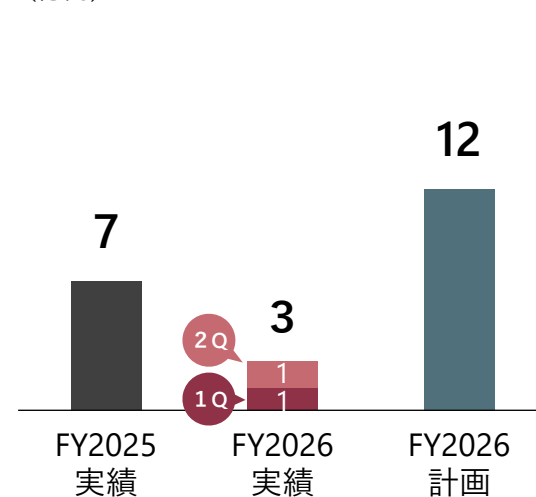


航空防衛



FY26計画比進捗 **21.6%**

(億円)

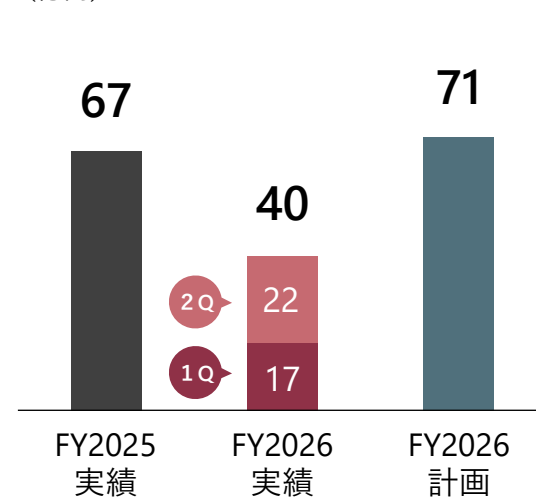


セラミックボール



FY26計画比進捗 **56.3%**

(億円)

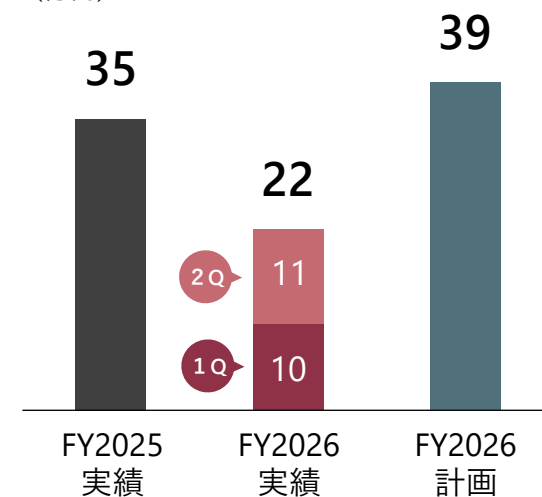


高機能プラスチック（EPC）



FY26計画比進捗 **55.2%**

(億円)



直近のインド事業トピックス

プネ市に営業拠点を新設



2つの製造拠点とは別に、プネ市（インド有数の製造・IT都市）に営業および顧客対応に特化した拠点を開設。

インドへ生産を集約するための設備移転 および工場拡張工事を開始



成長するインド需要の取り込みや、発表した米国アーウィン工場閉鎖に伴う生産移管のため、ビラードにある第2工場の拡張を開始。

インドの工場で BIS（Bureau of Indian Standards）ライセンスを取得



BISライセンスはインド国家規格であり、当社製品がインドの適用規格に適合していることを示すとともに、品質とものづくりへの真摯な取り組みを裏付ける。

お客様からサプライヤー表彰を受領

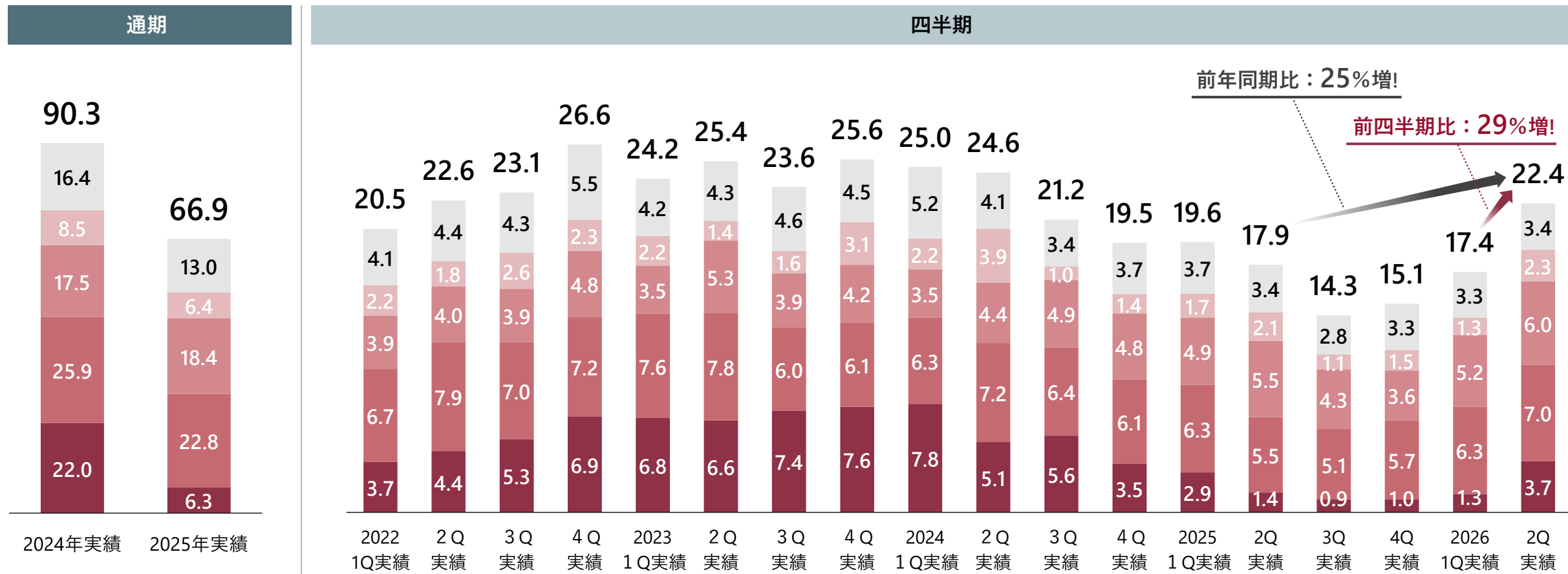


インドで事業を展開する日系ベアリングメーカーのお客様より、優秀なサプライヤーとして表彰を受領。

補足 | セラミックボールの用途別売上高推移

ポイント 第2四半期のセラミックボールはEV（電気自動車）向けを含め全般的に回復基調

(億円) ■EV（電気自動車） ■工作機械スピンドル ■一般産業用 ■半導体 ■その他



注）2024年実績のうち2億円は航空防衛関連（その他）

新たな需要の可能性

ポイント 精密ボールは、AIインフラを支える重要部品として需要を獲得していく期待が高まる

半導体用真空ポンプ

概要

真空ポンプは、半導体製造装置において高真空環境を作り出し、維持するために使用される重要な部品

推定市場規模

精密ボール市場の規模は、2025年に数十億円程度と推定され、2035年に向けて年平均成長率（CAGR）～10%程度を見込む



（出典：当社独自調べ）

ヒューマノイドロボット

概要

人体の形状を模して設計されたロボットで、通常は頭部、胴体、腕、脚を備え、センサー、人工知能、アクチュエータを用いて人間のような動きや作業を行う

推定市場規模

精密ボール市場の規模は、現状は僅少も、2035年に向けて年平均成長率（CAGR）～50%超、需要動向によってはそれ以上を期待



データセンター用冷却ファン

概要

サーバーやネットワーク機器に使用され、温度を調整して安定した稼働を維持するための冷却装置

推定市場規模

精密ボール市場の規模は、2026年に10億円超程度と推定される。今後2030年に向けた年平均成長率（CAGR）は～10%程度を見込む



目次

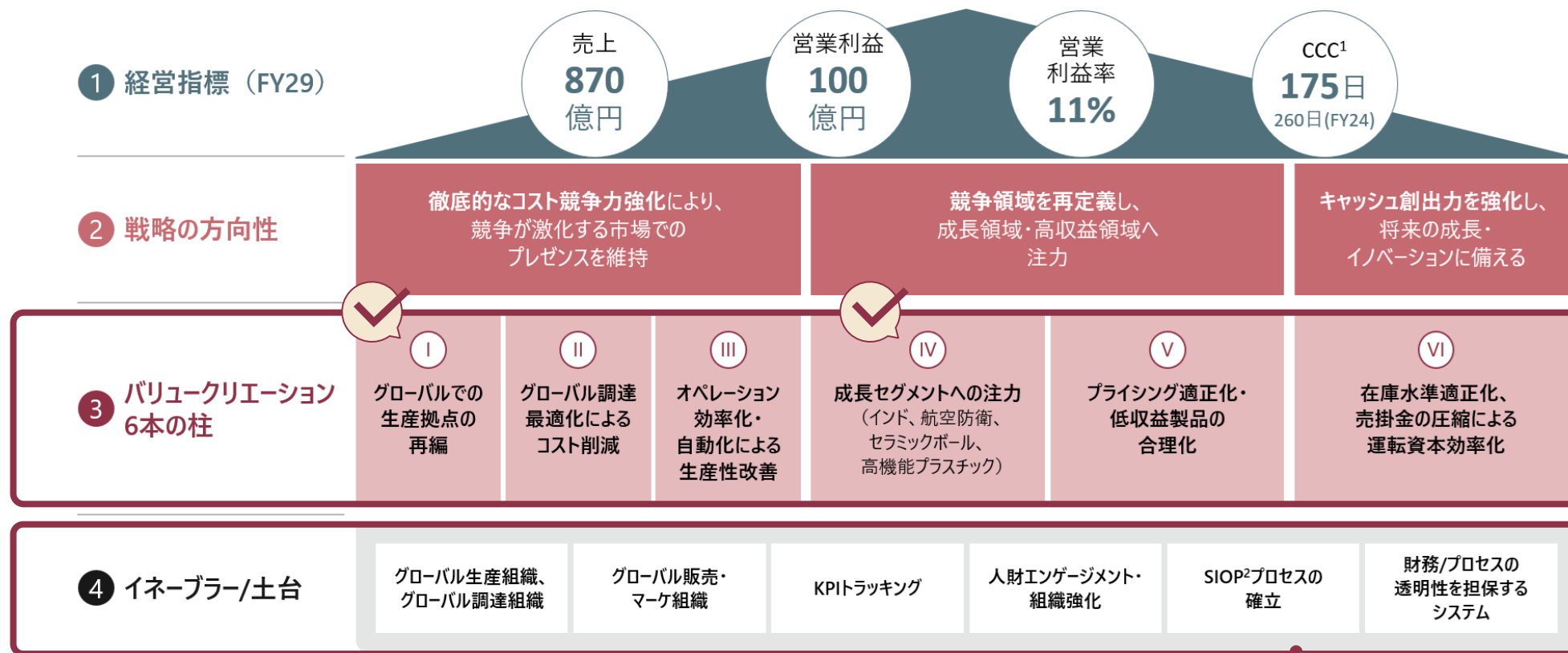
1. 2026年12月期第 2 四半期の業績

2. 中期経営計画2025-2029の進捗

3. サステナビリティへの取り組み

中期経営計画（2025-2029）の進捗

総括 2026年度は整えた土台をベースにⅠとⅣに力を入れていく



2026年度は特にⅠとⅣに力を入れていく

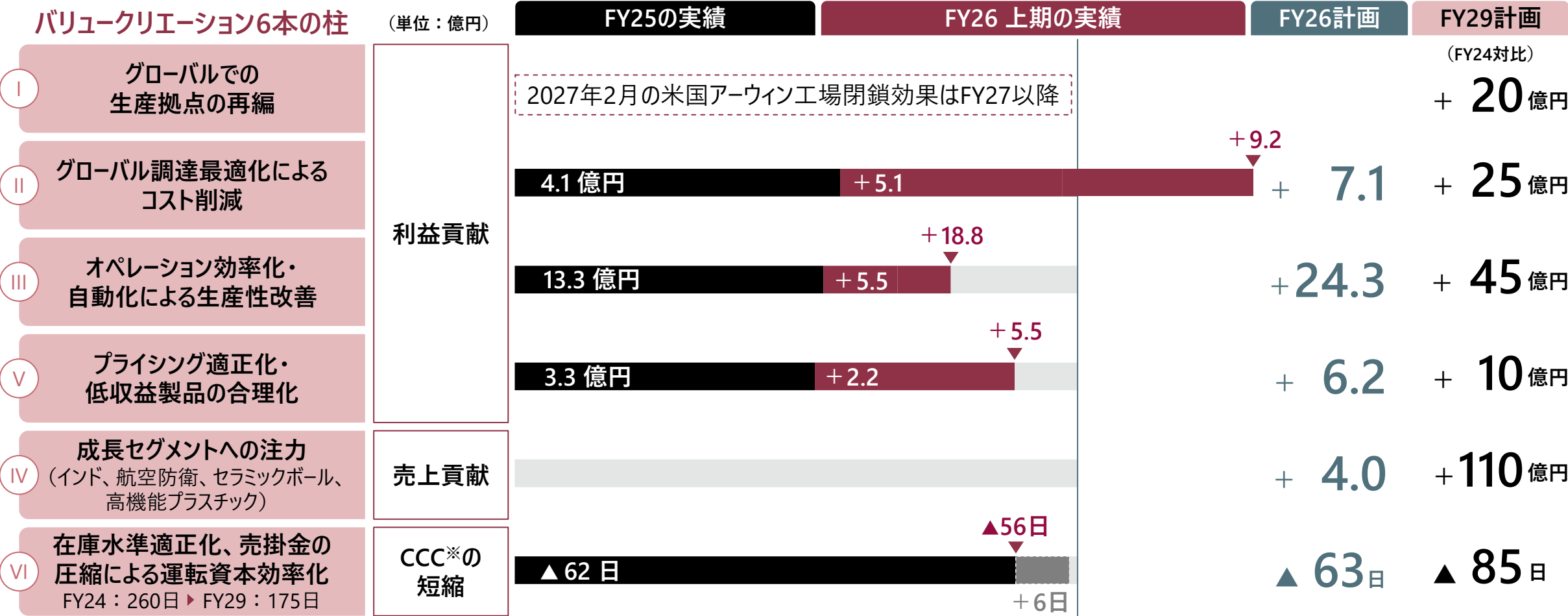
土台は整えたので、しっかりと効果を発揮していく

1. CCC=Cash Conversion Cycle, 在庫回転期間+売掛金回転期間-買掛金回転期間で算出
2. SIOP=Sales, Inventory, and Operation planの略

中期経営計画2025-2029の進捗：バリュークリエーションの柱

2026年計画の進捗

総括 2026年第2四半期も5カ年計画は着実に進捗。グローバル調達は通期計画を超過



※キャッシュ・コンバージョン・サイクル

目次

1. 2026年12月期第 2 四半期の業績

2. 中期経営計画2025-2029の進捗

3. サステナビリティへの取り組み

サステナビリティへの取り組み

2026年上期 主要プロジェクト

CO₂削減と
生産性改善を目指した
19のプロジェクトを開始

5つの工場で
グリーン電力証書を購入し
CO₂排出量を削減

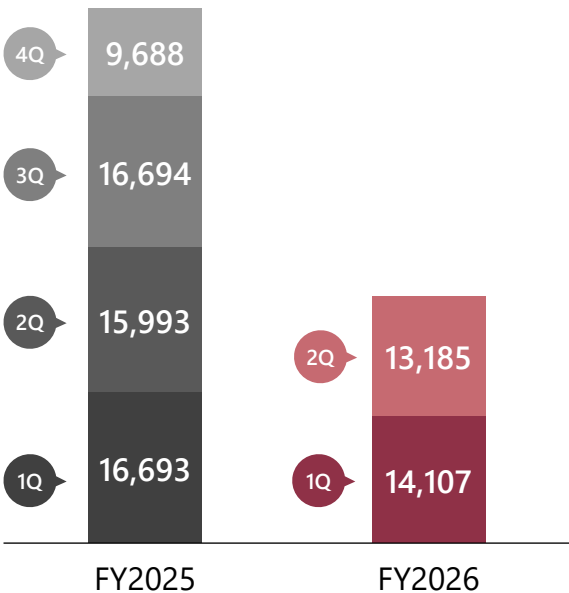
カーボンフットプリント

(CO ₂ トン/トン)	FY2025 上期	FY2026 上期	YoY
Japan	0.79	1.25	+0.46
West	0.74	0.64	▲0.10
Ceramic	12.6	18.6	+6.00
China	0.59	0.36	▲0.23
Rollers	1.66	1.24	▲0.42
EPC	1.51	1.78	▲0.27
合計	0.74	0.64	▲0.10

- 2026年上期のカーボンフットプリントは0.64と年間目標値0.8よりも良い数値
- また前年同期のカーボンフットプリント0.74と比べて0.10改善（前年同期比14%減）

CO₂ 排出量

(CO₂ トン)

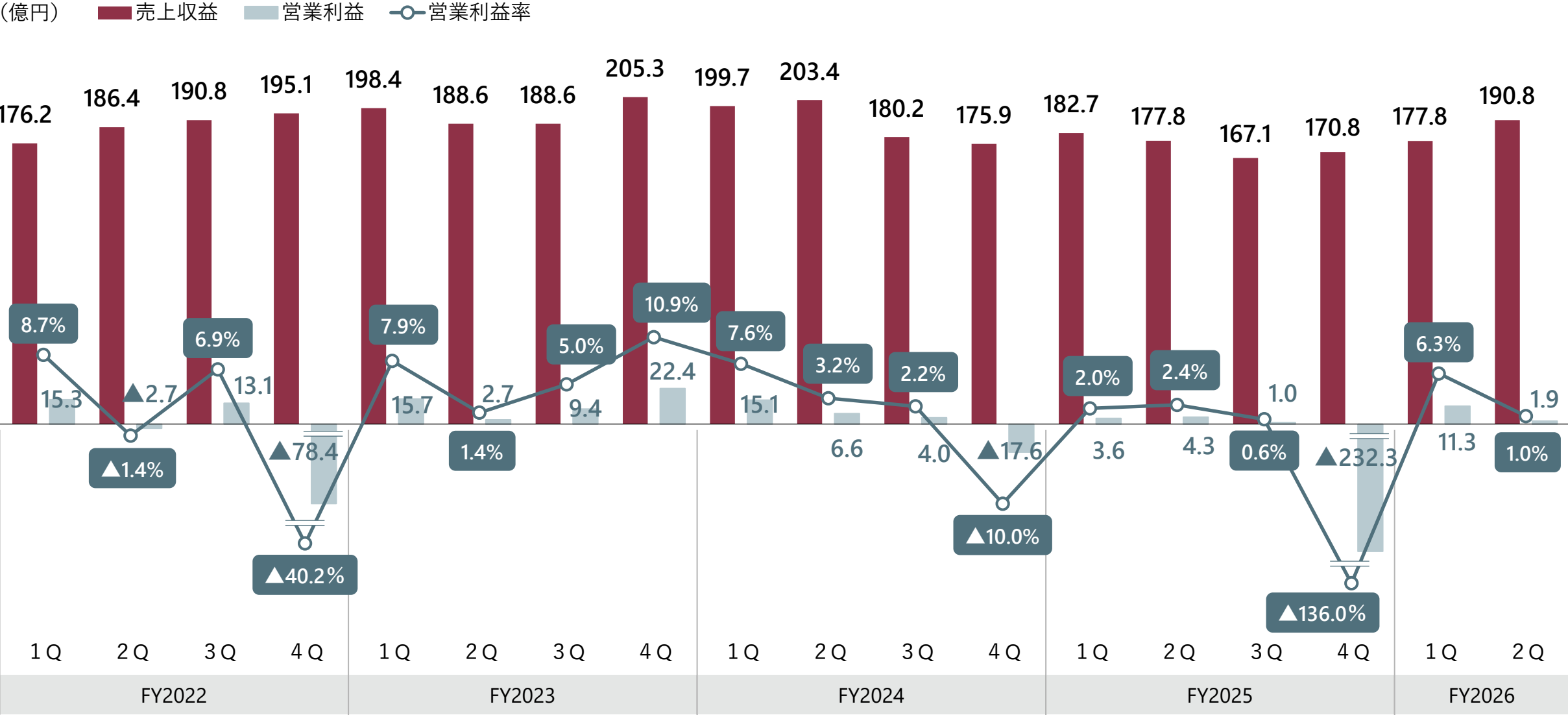


CO₂ 排出量は2025年
上期と比較して、17%削減

APPENDIX

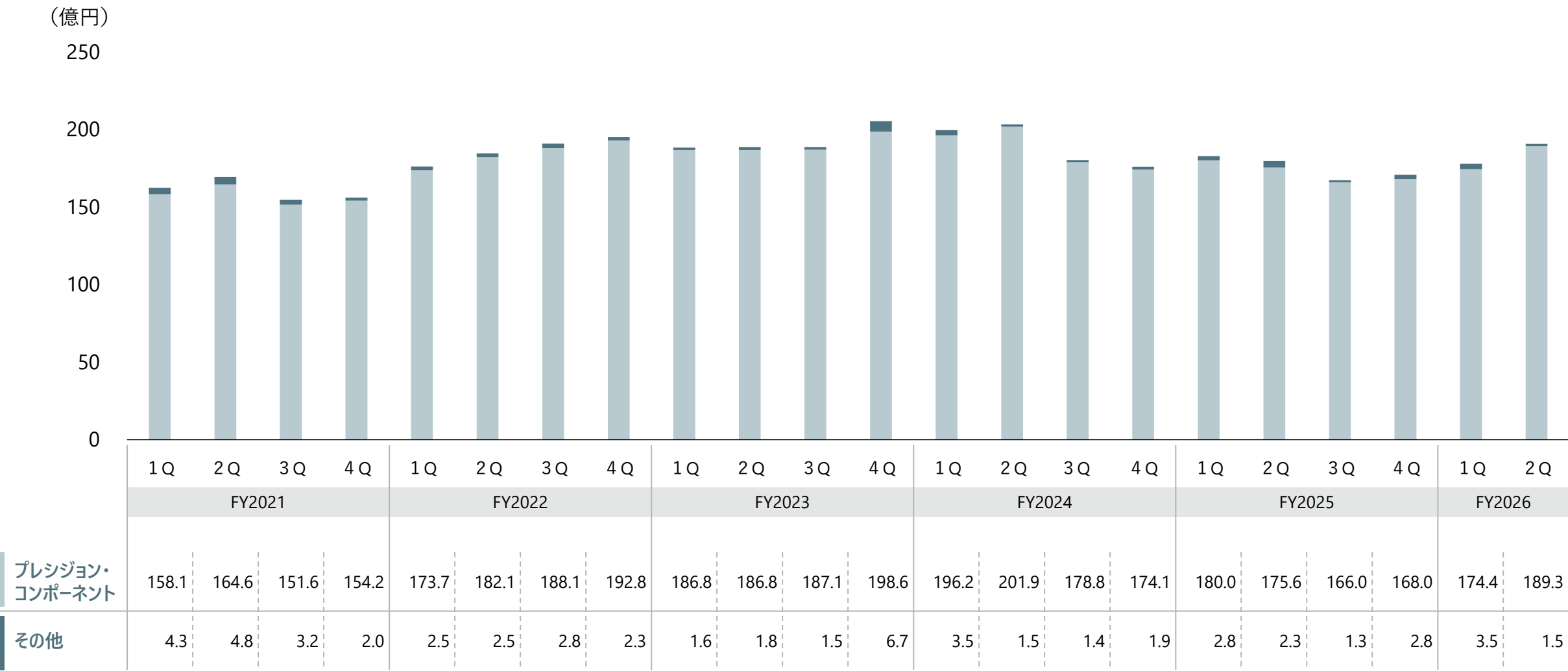
四半期連結業績推移

売上収益／営業利益／営業利益率



四半期業績推移

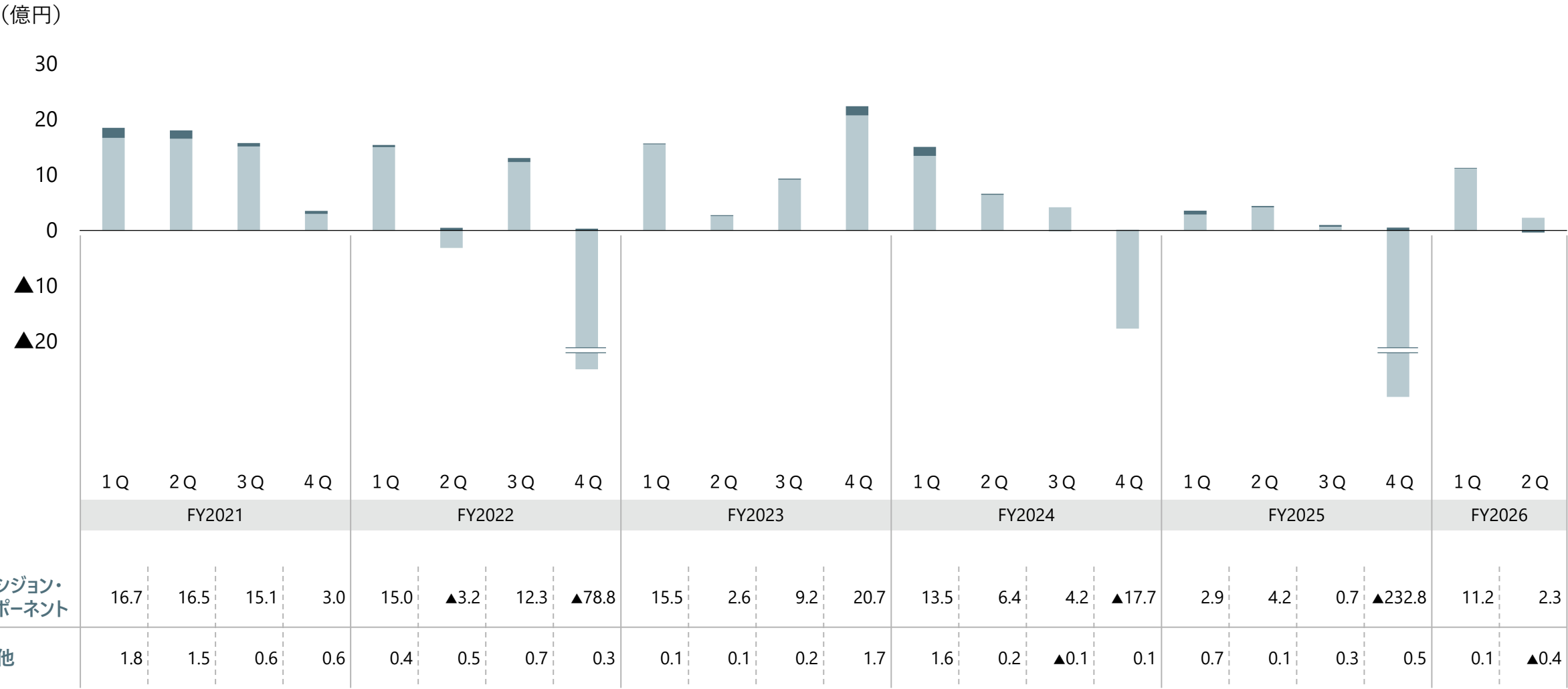
セグメント別売上収益



注) 2023年末までの上記数字は会計監査人の監査はを受けておりません
注) 上記の「その他」は、2024年12月期第4四半期から「プロア・リアルエステートビジネス」に読み替え

四半期業績推移

セグメント別営業利益



注) 2023年末までの上記数字は会計監査人の監査はを受けておりません
注) 上記の「その他」は、2024年12月期第4四半期から「プロア・リアルエステートビジネス」に読み替え

サステナビリティへの取り組み（補足情報）

持続可能な開発戦略

生産性とエネルギー効率改善：

生産性改善とエネルギー効率化を目指したプロジェクトを実施

脱炭素化：

再生可能エネルギー証書（REC）の購入と再生可能エネルギーシステムの導入によるグリーン電力の確保

生産技術：

該当する生産技術を特定し、効率を上げる

カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト（CDP）

- カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト（CDP）：世界の経済界は、環境報告のゴールドスタンダードとしてCDPを重視しています。CDPの目的は、**長期的に人々と地球のために機能する繁栄した経済を実現すること**です。CDPは、環境影響を測定し行動を起こすことで、投資家と企業が持続可能な経済の構築に注力するよう促します。
- TNは2025年度「気候変動」においてレベルBを取得しました。TNは毎年レベルBを維持することを目指しています。



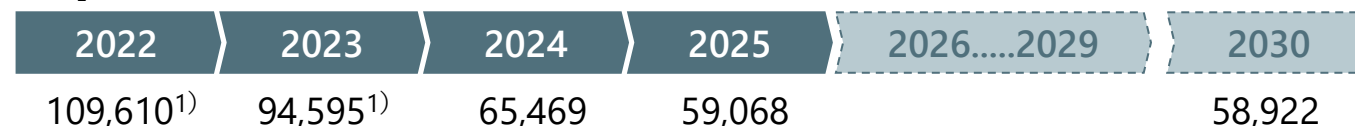
科学に基づく目標イニシアチブ（SBTi）

- Science Based Targets Initiative (SBTi)：TNの温室効果ガス排出量削減目標は、SBTiにより「科学に基づく目標」として認証されています。削減目標はSBTiにより「科学に基づく目標」として認証されました。
- TNは、**2022年基準年からの絶対的なスコープ1および2の温室効果ガス排出量を削減することを約束しています。**
- TNはまた、**2030年までに絶対値ベースのスコープ3温室効果ガス排出量を25%削減することを約束します。2030年までに2023年基準年比で25%削減することを約束しています。**



TNのCO₂ 排出量の推移とロードマップ

(CO₂ トン)



1) 数値には非継続事業が含まれます。

為替レート（期中平均レート）推移

	FY2023	FY2024	FY2025	FY2026	
(円)	通期	通期	通期	1 Q（3か月）	上期（6か月）
US\$	140.56	151.58	149.71	156.86	158.18
Euro	152.00	163.95	169.00	183.65	184.52
中国人民元	19.82	21.02	20.82	22.66	23.05

ご参考：FY2026第2四半期（4－6月）の活動ハイライト

ポイント▶ 営業・製造・組織と、網羅的な企業活動を展開

営業	4月 1日	広報リリース	<u>ツバキ・ナカシマのボールゲージが大手F1チームに採用</u>
組織	4月 1日	その他	日本拠点の入社式
営業	4月 7日	広報リリース	<u>インドのプネ市に新たな営業拠点を開設</u>
組織	4月 7日	適時開示	<u>連結子会社TN ASIA PTE. LTD.の清算終了</u>
他	4月 27日	メディア掲載	<u>ZUU onlineにCEO松山の取材記事掲載</u>
製造	5月 13日	適時開示	<u>米国ア－ウィン工場の閉鎖</u>
組織	5月 20日	お知らせ	<u>中途採用比率を公表</u>
他	5月 21日	お知らせ	<u>ESGレポート（和文）を公開</u>
他	6月 1日	その他	ツバキ・ナカシマ創立90周年
組織	6月 2日	適時開示	<u>組織変更に伴う人員削減等の合理化</u>
組織	7月 21日	メディア掲載	<u>東洋経済オンライン「女性管理職が本当に増えているラインキング」女性部長部門にランクイン</u>
製造	7月 23日	広報リリース	<u>インド2工場がBISライセンスを取得、インド事業のさらなる加速へ</u>
営業	7月 23日	広報リリース	<u>米カミング工場および航空宇宙・防衛事業ブランドムービーを公開</u>